



たくなってしまう。 のとき……小さいときと同じだ。 水乃のこういう顔を見ていると、 なんとかしてあ

「わ、私じゃ、やっぱりダメなの?」後で厄介なことになるのは分かって ?ってる。 それでも、

「そんなことない! 色々あったとは いえ、 p っぱり女の子だし、 あちこち柔ら

いいニオイだし……」

言ってるうちに恥ずか なってきたので、 途中 から声が萎んでしまう。

「……よかった」

水乃はようやく表情を緩め た

「私、こんなだから……キライって人も多 ってのは顔に似合わず荒っぽら……キライって人も多いし Ĺ もし か んた 5 伊月もそうなの

こんなだから、 いところ

まあ、俺も苦手だけど。

キライってのは違う。 全然違う。

⁻-----もうちょっと叩くのを控えてくれるか、 力抜 いてくれるかしてくれ

善処してあげる♪」

水乃は嬉しそうに笑って、巫女装束の なだらかな肩 から、 白い乳房までが丸出しになっ、巫女装束の腰紐を緩めた。 0)

だけど形よく盛り上がったおっぱいは、息を呑むほどキレイだった。二つの膨らみは大きくはない。というか、サイズ的には小さいほうだと思う。

のに、肉が つくところはちゃんとついてて、柔らかそう……

水乃が、今度は俺 0 腰紐 を解 いた。 息苦しくなるほどパンパンに怒張 7 13 たモ

出させる。

「近くで見るとこん なに ! やだ、 まだおっきくな 水乃は何度も瞬きをする。 ってる

「だって、その……水乃のおっぱい見えるし、ドキドキするし……」 初めて目にするペニスによほど驚いたのか、

「はぁ……この どうしようもないわね」

ヘンタイ。

「目の前に半裸の 可愛 11 子 がい たら、 誰だってこう なる も 65

ري!؟

水乃は狼狽 ばか……伊月のくせに……もうっ」 したようにそっぽを向い 頬 が ほん のり と赤く染ま

つ

7

らいを振り払うように、巫女装束を思 13 きり く脱ぎ捨 部屋の 全裸に な 0

中が薄暗い

せい

は

すらりとした面 .脚の付け根に、薄く陰った秘処が見えた。

とは確認できない っとジロジロ見 けど、 ない これが生まれて初めて見る女の でよ つ。 月 0 工 ッ

水乃はますます顔を赤くした。

布団に寝そべっ ている俺の腰をまたぎ、 ぎこちなく中腰の姿勢になる。

腰を落としていき、 股間に怒張したペニスを押し当てた。

くちゅつ.....。

の性器 肉竿の先端と水乃の秘処が の温かさと柔らかさとを実感し、 ぴったりと密着した。 俺のモノはさらに硬く、 ものすごく熱い 大きく膨張した。 0 初め て触れる女の子

「じっとしてて」

水乃は腰を前後にグライ ンドさせて、 いきり立っ た怒張に肉裂を擦り つけてくる

「うあぁぁぁぁつ・・・・・!」

心地よい感触が電 流となって亀頭を痺れさせた。

水乃は少し腰を浮かせ、 ペニスとクレヴァスをこすり合わせながら前後運動を繰り返す。

あぁ っ……あんっ」

水乃も気持ちの いい部分が擦れたのか、小さな声を上げる。

スレンダー

顔を紅潮させ、 な裸体をくねらせる水乃の姿に、 ふううつ、 俺は興奮を昂らせた。 つ……!

はあああつ、 擦れて……るうつ。く、 んつ、 はあ

静かな部屋に水乃の息遣いだけが響く。

くちゅっ、 くちゅっ、 と股間から湿った音が鳴 つ た。 淡い 秘毛に飾られた秘処が妖しく

濡れている。愛液が染み出 して、ペニスにまで付着していた。

水乃が下腹部をスライドさせるたびに湿り気が増し、ぐちゅ、 ぐちゅ つ、 とい

音が大きく響く。ハアハアとお互いの呼吸が荒くなった。

「ん……も、もう……だいじょぶかな……。 はぁ……はぁ……」

頃合だと思ったのか、水乃はふ いに動きを止めた。ぎこちなく位置を調節 ヌ ラ ヌ ラ

と濡れた割れ目を亀頭部にあてがう。

「じゃあ……す、する、よ?」 水乃の声がうわずっていた。

あの『荒くれ水乃』と同一人物とは思えないほど怯えて

ああ、水乃もやっぱり女の子なんだな、と感動した。

そんな彼女と剥き出しの性器を触れ合わせていることを強く意識する。 いよいよ水乃の中に入るんだ、と甘い期待感で胸を疼かせた瞬間

んつ……!

肉棒の先端に心地のよ 45 圧迫感が走った。

桃色の 割れ目がゆっくりと左右に開く。

まっ 同時に た内部は抵抗感が強く、 俺の亀頭がにゅるり、 ペニスがなかなか奥まで入って と温かな襞に分け入る感触が 45 かな した。柔肉がみ 13 つ

勝ち誇

挿れるからっ。んんつ……! んつ……く……いた、

水乃は眉をひそめて、少しずつ少しずつ腰を落とした。

頭にかかる圧迫が増し、ペニスの先端から中腹にかけて温か な粘膜に包まれてい

みちっ.....

何かを突き抜けるような感触が訪 n た。 処女膜 0) 破 れる感触だ。 同時

が水乃の奥深くまで埋没したのを感じ取る

「うく……っ! ん……は、はい…… つたあ.....

水乃が深いため息をこぼした。

「はあつ、はあつ、はあつ、はあつ……

俺のほうは、ペニス全体が隙間なくみっちりと柔らかな肉壁に包まれる感覚に圧倒され

て言葉も出なかった。

「うう、ずくずくする…

と蠢いた。膣に収まっている異物を 水乃は少し顔をしかめると、片手で下腹部を押さえる。その動作だけで内部 つまり俺のモノを排除しようと締めつけてくる。 がうね うね

「うっ、ちょ、そんなにしたらっ……!」

「えっ、きゃうっ!! ま、 待って、中で震えちゃ まだイ タ 65 h だかか

「無理だって……! こんなに気持ちいいんだからっ……」ま、待って、中で震えちゃダメっ!

水乃が全身をこわばらせる。無理でもなんでもいいから、 とに かく待って ダメ、んんんつ……!

た粘膜がよけいに絡みつ 45 た。 Z そのせいで締めつけが強まり、ペニス全体にヌメヌメとし \mathcal{O} ままだと、入れ 7 いるだけで射精 して しま

「くううっ……!

「んん……ふぅ、ふぅ……。 な、 なんか、 だいぶ慣れてきたかも

水乃はツインテールの 髪を軽くかきあげ `` 息をつ 15 た。

「……大丈夫か?」

ん、ヘーき。 ありが

水乃は少し力を抜いたようだ。

といっても、 肉ヒダの収縮はあい かわらずで、 締めつけもき う

半身が痺れるような快感に思わず顔をしかめた。

「んっ……だらしない顔しちゃ こったような顔で見下ろしてくる水乃に、俺は無言で何度もうなずいた。…だらしない顔しちゃって。ね、気持ちいい? 私の中」

りの気持ちよさに、挿入しているだけで射精してしまいそうだ。 熱く蠢く柔肉にくわえこまれた肉棒が びくん、びくん、と細か 、震え

てみるね。まだ慣 にれてな いからゆっくりだけど」

腰を小さく 揺らした。 連動 て膣粘膜がうね り、 ペニスの芯に痺れるような快感

「や、ちょ、やばっ……! くっ……!」

私だって我慢してるんだから。 伊月も我慢するの!」

水乃がお姉さん口調で叱りつける。

騎乗位での、 恥骨と恥骨を擦りつけるようなグラインドが始まった。その動きは次第に

大きくなり、 あまりの快感に耐えきれず、 激しくなり、 結合部で粘液の絡みつく音がいやらしく響いた。 俺は無意識に下から腰を突き上げた。 狭苦しい膣をかきわ

「んんっ、もう、い、伊月は動いちゃダメ!」けて、怒張したモノが水乃の最奥を打つ。

る。 水乃が悲鳴を上げた。あふれる粘液によって滑り 互いに腰を動かすたびに、 、がよくなり、 スムーズにピストンでき

「さっきから……んんっ、 情けない顔しちゃって。 内壁が蠢いて俺のモノを甘く絞った。 気持ちいいんでしょ?」

小悪魔のような笑みで俺を見下ろす水乃。

うん、だから自分でも……」

「ダーメ。伊月は、どうしてほしいか言うだけ」

どうしてほしいかを考えるが、 どう動かれても簡単に出してしまいそうな予感はある。 今でもものすごく気持ちいいので言葉が出てこない。



ゃあ……俺は今のままでも充分だから……水乃が楽なように……」

んんつ・・・・・りょー

にちゃっ、にちゃっと、結合部で粘液が音を立水乃は微笑むとふたたび腰をグラインドさせた

てる。

れ……? やだ、ちょっと……これ、気持ちい……んんっ……

敏感な粘膜が擦れ合い、熱く痺れるような快感が高まってきた。

¯んぁっ……はぁ、はぁ…こ、これ……なんか、スゴイ気持ちいいとこ、擦れて……っ! 深刺しで腰を前後させているため、同時にクリトリスも擦れる。それが水乃にとっては

かなりの快感ら しく、よだれを垂らしながらより激しく腰をくねらせた。

あああ あつ....! や、ぁつ……え、エッチな声、出ちゃう……んんつ

時折腰を止めると、水乃はそのままブルブルっと小刻みに震える。 快楽の小さな波

Ö

続的に訪れているらしい。 「んんっ、 ふあつ……! い、伊月の……中でずっとビクビクしてて……

それも……きもち、いい……っ!」

のほうもさっきから下腹部がジンジンと疼い て止まらな 13

体験の感動もあって、すぐに射精感が高まった。

もはや一秒たりとも発射を我慢できないくらいに、 ペニスが

- うぁ……み、水乃っ! つ..... んあ、あ、あう、 やだやだ、 きもちい

俺は眉間を寄せてうめ 出るつ……!」 いた。

初めて味わうセックスの愉悦で意識が真っ白に溶かされる。

んんっ……これ……来ちゃう……! うぁ、ああつ…… ひあ あ あ

水乃が一際大きな声を上げた瞬間、 内部がきゅっと締まる。

腹部に、ふっ、と浮遊感のようなものが訪れた。

時に、俺は我慢していたものをすべて水乃の内部へぶちまけ

んあつ!? ひ、あ、あつっ……! ううっ!

呆れるほど大量のザーメンを水乃の中に注ぎ続ける。どくっ、どくっ、 自慰とは比べものにならない快感に、 後から後から精液が噴き出 と膣にくわえこ

した。

まれたままのペニスが脈動を繰り返し、下半身に甘ったるい痺れが広がっ てい

「ふうううううつ……!

最後に大きく脈動 頭もスッキリしてるし、 精液を大量に吐き出 熱っぽい したところでようやく射精が のも全部なくなってる……」 :終わ

|作用は完全に解消されていた。

それ なら 問題解決 じゃない。 やってもらえるかも」

ぷちぱら文庫

しゃーまんず・さんくちゅあり - 巫女の聖城-

2011年 4月28日 初版第1刷発行

■著 者 天草白

■イラスト アシオ

■原 作 アリスソフト

発行人: 久保田裕

発行元:株式会社パラダイム

〒166-0011

東京都杉並区梅里2-40-19

ワールドビル202 TEL 03-5306-6921

印 刷 所:中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などをすることは、 かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。 定価はカバーに表示してあります。

©SHIRO AMAKUSA ©2010 ALICESOFT

Printed in Japan 2011

PP015





表紙は「じろう」氏の 描き下ろしです!

好評発売中





旦ぶちばら文庫は

ライター&イラストレーターを募集中です!

「ぷちぱら文庫」シリーズを盛り上げる、新たな作家を募集い たします。「ぷちぱら文庫」は、ゲームノベライズだけでなく、 オリジナル創作による美少女小説も刊行予定です。 応募規定は、それぞれ以下のようになります。

皆様のご応募をお待ちしております!

1. 募集内容

「ぷちぱら文庫」シリーズでは、美 少女ゲームやライトノベルを好む読者 層へ向けた作品作りを目指しています。 ご応募いただく場合も、ヒロインの 個性や魅力が伝わるようなもの、シ チュエーションへのこだわりが感じら れるものなど、はっきりしたテーマの ある作品でお願いいたします。題材は とくに限定していません。発表済か、 未発表作品かも問いません。

3. 選考結果などについて

メールでご応募いただいた場合は、 着信のご連絡は必ず行っています。選 考は随時行っており、締め切りはとく にございません。選考終了後、採用 の方にのみ別途お返事をしております。 通常はお返事までに、2週間~1か 月ほどお時間がかかります。

2. 送付方法

小説の場合は、テキストデータを メールでご応募ください。コミックや イラストは、原稿用紙をお送りいた だいても、データをお送りいただい ても結構です。データが5MB以上 の場合は、ファイル転送サービスな どをご利用ください。コミックには枚 数の規定はありません。小説は1ペ ージを17行×40文字として、50ペー ジ以上の作品をお送りください。

4. 作品の送付先

ご郵送の場合は下記住所までお 送りください。メールでのご応募は以 下のアドレスで受け付けております。 どちらの場合も必ず「お名前、年齢、 ご職業、ご住所、電話番号 | を書い た紙を同封するか、明記してください。 メールの宛先: desk@parabook.co.ip

〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-19 ワールドビル202 株式会社パラダイム 「ぷちぱら文庫作品応募」係

※ご応募の際の個人情報は、選考結果のご連絡にのみ使用いたします。

作品のご返却を希望の場合は、宛名を書いた返信用封筒と切手を同封してください。